

宮内文雄 長野県老人クラブ連合会会長 あいさつ

晴天に恵まれた本日、ここ上田市において、県下各地から大勢の皆さんのご参加をいただき、第55回長野県老人クラブ大会が開催できましたことに対し、まずもって、感謝申し上げます。

また、ご来賓の皆様には、大変お忙しい中、ご臨席をいただき、有り難うございます。厚く御礼申し上げます。

さて、本日のメインテーマであります「のぼそう！健康寿命、担おう！地域づくりを」は、全国共通のテーマであります。

特に、健康とは、体や心の状態が良好な状態であります。実は、私は昨年11月の関東甲信越地区の研修会の折り、不注意から布団に足を絡ませ膝を痛め、杖を突く状態になり、マレットゴルフもウォーキングもできなくなりました。それが、まだ尾を引いており、健康の大切さを痛感しております。

長野県では、平均寿命は男女とも全国1位ですが、健康寿命は、男性が71歳、女性が74歳で、全国では5、6番目と聞いております。これを少しでも長く、80歳から90歳まで「のぼそう健康寿命」の運動を進めているところです。今や、健康も寿命も自分の心掛け次第だと思います。

今、老人クラブに対する期待は益々大きくなっております。こうした高齢者や地域の期待に充分応えていくためには、現在、老人クラブが抱えている大きな問題を、まず、解決しなければならないと思っております。その大きな課題とは、私たちの仲間である会員の減少であります。会員数の推移については、本年4月1日現在の9万6千人は、ピーク時の平成5年度24万7千人の4割以下となっております。会員数の減少は長野県だけではなく、全国の老人クラブ共通の課題であります。

全国老人クラブ連合会では、会員の増強に努めるため、「全国100万人会員増強運動」を実施しています。県老連も、この運動に協調し、本年度から5カ年の運動方針を定めました。会員2万人増を目標に、平成26年度に4千人増、二年度以降も4千人増とし、5年間で2万人に近づけるよう努力するというものです。したがって、毎年4%の会員増を目指すというものです。

このため、老人クラブ未加入者のニーズを把握し、会員の増強に資するため、本年度、単位クラブにアンケート調査を実施いたしました。高齢者や地域のニーズを的確に把握できる組織活動にしなければならないと考えているところです。

半世紀以上にわたり、先人たちが築いてきた活動を、更に前進させ、新しい時代に相応しい老人クラブ活動にしなければなりません。

その皆様の一人ひとりが、永年にわたり老人クラブ活動の育成と発展にご尽力された皆様方に対し、本日、表彰を申し上げます。

私の主張は、長野市の山田美代子さんから「キラキラ食事は長寿食」と題して、発表いただきます。

次に、上田市の益子輝之さんから「昔話を考える」と題して講演していただくことにしています。

どうぞ有意義な日にしていただきたいと思います。

終わりに、本日受賞される皆様に対し、心からお祝いを申し上げます。その賞状一枚一枚に様々な思いが込められていると思います。これを機会に更なるご活躍をご祈念申し上げます。

また、本大会の開催地として受入準備等にご協力いただいた上田市高齢者クラブ連合会と関係の皆様へ感謝申し上げます、挨拶とさせていただきます。

平成 26 年 10 月 16 日

一般財団法人長野県老人クラブ連合会
会 長 宮内 文雄